

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標の達成度	事業対象の貧困女性が女性グループの活動により収入を得る機会をもち、収入が向上する。 事業対象地域郡のうち1年次事業の収入創出活動の実施対象者であるカレ・マロ郡及びウバ・ヤンバラ郡の女性は、収入を得る機会を持つことができ、収入を得ることができはじめた。ベレタ郡・バガラ郡では女性グループのグループ貯蓄が開始され、収入創出活動の下準備がなされ、目標に大きく貢献した。																									
今期事業達成目標	ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡の事業対象女性が収入創出活動に従事できる時間を確保でき、2年次にメンバー個人の収入創出活動に対して貸し出しできる十分な貯蓄がなされた。 ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡において、調査対象（ウバ・ヤンバラ郡 SHG320 中(60%) 192 人、カレ・マロ郡 220 人中(60%) 132 人）の女性の87%が往復15分以内で水汲みを行えるようになったと回答した。そのうち96%の女性が1日2度水汲み、生活に必要な水の量を汲むことができ、自由な時間が増えたと感じると回答している。また、貯蓄も各グループで積立貯蓄がなされなかったケースは1例もなく、平均4,000ブル以上貯蓄できた。ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡の事業対象の女性全員がグループ貯蓄から借入し、収入創出活動を実践した。今期目標を上回りグループだけでなくすでに個人での収入創出活動が実践されている。																									
(2) 事業内容	4郡(ウバ・ヤンバラ郡、カレ・マロ郡、ベレタ郡、バガラ郡)で、女性グループ等の発足と体制を構築し、住民に対する水管理及び女性グループに対する収入創出活動（IGA）研修を実施した。また、ウバ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡の住民参加による水供給設備を設置し、収入創出活動を開始した。4郡の住民を対象に事業開始前のベースライン調査を実施した。 <table><tr><th colspan="2"></th><th>第1年次</th><th>第2年次</th><th>第3年次</th></tr><tr><td rowspan="2">ウバ・ヤンバラ郡 及び カレ・マロ郡</td><td>ソフト</td><td>・女性グループ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修 ・収入創出開始</td><td>・収入創出活動研修フォロー ・近隣事業地訪問</td><td rowspan="4">4郡共通 ・水供給全体評価会議 ・収入創出活動フォロー ・フォローアップ研修 ・SHG協同組合研修 ・SHG協同組合設立・体制構築 ・女性グループリーダーズ研修</td></tr><tr><td>ハード</td><td>水供給設備設置</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">ベレタ郡 及び バガラ郡</td><td>ソフト</td><td>・女性グループ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修</td><td>水供給事業体制構築 ・収入創出活動開始とフォロー ・近隣事業地訪問</td></tr><tr><td>ハード</td><td></td><td>・水供給設備設置</td></tr><tr><td colspan="2">報告書・マニュアル作成</td><td>・ベースライン調査(全4郡)</td><td>・中間データ収集 ・マニュアル作成開始</td><td>・データ収集・分析 ・マニュアル完成 ・セミナー開催</td></tr></table>			第1年次	第2年次	第3年次	ウバ・ヤンバラ郡 及び カレ・マロ郡	ソフト	・女性グループ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修 ・収入創出開始	・収入創出活動研修フォロー ・近隣事業地訪問	4郡共通 ・水供給全体評価会議 ・収入創出活動フォロー ・フォローアップ研修 ・SHG協同組合研修 ・SHG協同組合設立・体制構築 ・女性グループリーダーズ研修	ハード	水供給設備設置		ベレタ郡 及び バガラ郡	ソフト	・女性グループ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修	水供給事業体制構築 ・収入創出活動開始とフォロー ・近隣事業地訪問	ハード		・水供給設備設置	報告書・マニュアル作成		・ベースライン調査(全4郡)	・中間データ収集 ・マニュアル作成開始	・データ収集・分析 ・マニュアル完成 ・セミナー開催
		第1年次	第2年次	第3年次																						
ウバ・ヤンバラ郡 及び カレ・マロ郡	ソフト	・女性グループ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修 ・収入創出開始	・収入創出活動研修フォロー ・近隣事業地訪問	4郡共通 ・水供給全体評価会議 ・収入創出活動フォロー ・フォローアップ研修 ・SHG協同組合研修 ・SHG協同組合設立・体制構築 ・女性グループリーダーズ研修																						
	ハード	水供給設備設置																								
ベレタ郡 及び バガラ郡	ソフト	・女性グループ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修	水供給事業体制構築 ・収入創出活動開始とフォロー ・近隣事業地訪問																							
	ハード		・水供給設備設置																							
報告書・マニュアル作成		・ベースライン調査(全4郡)	・中間データ収集 ・マニュアル作成開始	・データ収集・分析 ・マニュアル完成 ・セミナー開催																						

I. 4郡における委員会などの発足と体制構築

(ア) 事業体制構築

資材運搬に必要な道路整備を住民たちが準備することで合意しており、事業開始と同時に道路整備が開始された。また、住民への事業参加を促進するため、村長をはじめとする村の有力者の協力を得て住民全体会議を実施した。プロジェクトの最終調整と準備を行った上で、以下の委員会などを発足させた。

2 年次発足予定

女性グループ(1グループ20名)の収入創出活動は、毎週少額の積立貯蓄を行い、それを元手にグループで収入創出活動を実践した。また下記の内容の研修を実施した。住民から雇用したコミュニティ委員が女性グループに研修内容の理解を促進するため、グループの活動日に参加しフォローを行い、1ヶ月に一度レポートをコミュニティーマビライザーに提出し、コミュニティーマビライザーは必要に応じ女性グループに対して直接フォローを行った。

[illegible]

(ア) 住民参加型水供給設備の設置

- 101 -

	ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡の住民参加型水供給設備が設置された。						
	郡 名	水源 ボックス	貯水 タンク	給水所	洗濯場	パイプライン (km)	裨益者数
	ウバ・ヤンバラ	3	3	18	16	10.10	2,976
	カレ・マロ	2	2	12	11	5.40	2,028
	ベレタ	1	1	9	8	5.30	1,548
	バガラ	1	2	12	10	4.82	1,674
	合 計	7	8	51	45	25.62	8,226
(3) 達成された成果	* 1 年次に建設完成						
	III. 収入創出活動研修マニュアル・報告書作成準備・モニタリング						
	(ア) ベースライン調査の実施						
	(イ) ベースライン調査の取りまとめ						
	(ウ) モニタリング ・ 6月11日～14日には州政府役人によるモニタリング（うち12日はゴファ地方・オイダ地区・事業地4郡・法務局役人も参加） ・ 6月15日～21日はガモゴファ地方役人がモニタリング						
(3) 達成された成果	【期待される成果①】 ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡の事業対象女性は毎日1～2時間費やしていた水汲みの重労働から解放され、他の活動に従事する時間を確保することができ、成果が現れた。 指標：ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡において、調査対象（ウバ・ヤンバラ郡 SHG320 中(60%) 192 人、カレ・マロ郡 220 人中(60%) 132 人）の女性の 87%が往復 15 分以内で水汲みを行えるようになったと回答した。そのうち 96%の女性が 1 日 2 度水汲み、生活に必要な水の量を汲むことができ、自由な時間が増えたと感じると回答している。さらに、自由になった時間が増えたと回答した女性に、自由になった時間の利用の仕方について調査を行った。ウバ・ヤンバラ郡では、収入創出活動に時間を費やしている女性が 68%、家事に時間を費やしている女性が 25%となった。カレ・マロ郡では、家事に時間を費やしている女性が 52%、収入創出活動に時間を費やしている女性が 39%となった。 調査方法：ホープ・モビライザースタッフによるアンケート調査（ウバ・ヤンバラ郡 SHG320 中(60%) 192 人、カレ・マロ郡 220 人中(60%) 132 人）						
	【期待される成果②】 4 郡において女性のコミュニティ活動参画の機会が増加することにより、女性に対する差別が大幅に減少し、成果が顕著に現れた。 指標：ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡において集会や会議に、ホープ・モビライザーが参加し、女性の発言に対して、男性の女性を差別するコメントや態度がなされことはなかったことを確認した。また、上記①②同様の対象者に対して、事業開始後から男女差別が減ったと感じるか聞いたところ、回答者全員が減ったと感じると回答した。 確認方法：ホープ・モビライザーによる会議への参加、アンケート調査（上記①対象者と同じ）						
	【期待される成果③】 ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡において女性グループ（27 グループ）のグループ収入創出活動の利益及び毎週実施される積立貯蓄によって、積立貯蓄が増加した。 指標：ウバ・ヤンバラ郡（16 グループ）では、毎週 5 ブル/人を各 SHG グループで貯蓄し、合計 640,000 ブル（1 グループ 4,000 ブル）となった。また、カレ・マロ郡（11 グループ）は、合計 45,100 ブル（1 グループ 4,100 ブル）となった。両郡ともに 2021 年 5 月からグループ貯蓄を開始し、毎週 5 ブル/人（カレ・マロ郡 5 月のみ 6.25 ブル）をグループ						

	で貯蓄し各 SHG グループ帳簿にて管理している。貯蓄だけでは指標としていた 10,000 ブル/グループに達することができなかったが、貯蓄が行われていない事例が 1 例もなかった。また、ウバ・ヤンバラ郡では 7 月からこのグループ貯蓄から借入（ローン）が始まり、収入創出活動による利息と元本返済も行われていることも確認した。カレ・マロ郡では 10 月から借入、収入創出活動が開始している。 確認方法：帳簿、個人用貯蓄帳の確認 【期待される成果④】 ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡において事業対象女性は急にお金を必要とする事態が発生したとき、女性グループのソーシャルファンドから借りることができるようになった。 指標：各 SHG グループで、ソーシャルファンドの積立（毎週 1 ブル～2.5 ブル）がなされ、必要に応じ利用されている。現在の利用状況は主に、SHG グループで会議をする際のお茶代など、他個人で薬代などに利用されているのを確認した。 確認方法：帳簿と個人用貯蓄帳の確認、女性グループへの聞き取り 【期待される成果⑤】 ベレタ郡及びバカラ郡において女性グループ（18 グループ）積立貯蓄が開始され、指標としていた 3000 ブル以上となり、成果が見られた。 指標：ベレタ郡及びバカラ郡においてグループ積立貯蓄が 2021 年 5 月から開始された。月によって積立額が異なり、2.5 ブル/人から開始し、現在は 5 ブル。8 グループ合計で 28,600 ブル（平均約 3500 ブル/グループ）積立貯蓄がなされた。バガラ郡（SHG:10 グループ）も各グループや月によって毎週積立される貯蓄額が異なるが、合計 37,960 ブル（平均約 3700 ブル）が貯蓄された。 確認方法：帳簿と個人用貯蓄帳の確認
（４）持続発展性	（ア）住民による水供給設備の維持管理 ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡にて、水供給設備が計画通り設置された。住民参加による道路整備も行われ、資材運搬も住民の協力により工事も滞りなく行われた。住民の事業に対するオーナーシップも高められた。今後の運営については、住民で構成された「水・衛生委員会」が行う。また、住民全体集会を実施し、住民によって水利用に関わる規定が策定された。メンテナンスチームメンバーも選出され、補修管理に必要な技術指導も実地訓練を実施し、事業 2 年目では、運営をフォローし、また研修を行い人材育成・強化していく予定である。 （イ）女性の収入向上によるモチベーションの維持 事業開始時にゼロだった女性グループの積立貯蓄の総額を大きく増やすことができた。貯蓄開始から貯蓄がなされないグループは 1 例もない。また、ウバ・ヤンバラ郡及びカレマロ郡の女性たちは、収入創出活動を開始し利益を子どもの教育費などに充てるなど収入があることでモチベーションが高まっている。 （ウ）コミュニティにおけるジェンダー不平等の軽減と活動への理解の促進 水・衛生委員会において女性グループリーダーが参画し、発言や事業への責任のある役割を担いコミュニティ内での女性に対する差別が軽減された。コミュニティ全体における女性グループの活動に対する理解が促進され、男性が女性のグループの活動に大きく理解を示している。 （エ）事業の成果と波及効果の実感により住民の継続意欲促進 ウバ・ヤンバラ郡及びカレマロ郡では、安全な水の利用、手洗いの実施、家庭トイレの利用により事業終了時には下痢疾患に罹患しづらくなったことを住民が実感できている。また水汲みのために通学できなかった子どもは水供給設備ができたことで短時間で水汲みが行えるようになった。収入創出活動で得た収入で、教材などの就学費用を捻出する世帯が出てきており、より活動が活発することが見込まれる。